

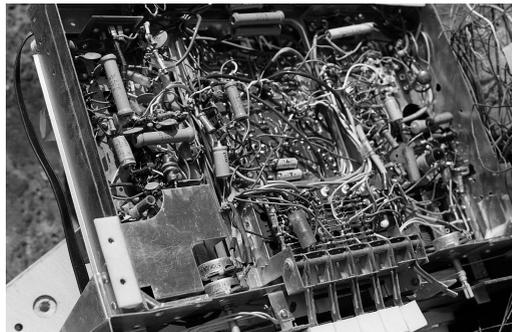
砂守勝巳の名を初めて聞く者は少なくないのではないか。かくいう私もそうだった。しかしそれも無理はない。2009年に57歳で没した砂守は、生前にいわゆる「写真集」をほとんど出していない。唯一と言ってよい『漂う島、とまる水』で第15回土門拳賞こそ受賞したものの、私が彼のことを知るきっかけとなった1990年代初頭の長崎、島原半島での雲仙普賢岳の大規模噴火被災を捉えた連作「黙示の街」は、写真集になっていない。いま見ると、その1995年初頭に起きた阪神淡路大震災を皮切りに、災害の御代といってもよいほどの自然災害に見舞われることになる後の平成年間を先取りしたような写真に、思わず身震いがする。

にもかかわらず、生前の砂守がその仕事に見合うだけの評価を得られなかったことには、様々な背景があった。第一に、砂守の出自があまりにもドラマチックで、その物語性が生涯にわたってつきまとった。軍属であったフィリピン人の父と、奄美大島出身の母とのあいだに沖縄本島で生まれ、のちに生き別れとなる父との再会を期して父の名を冠するボクサーとなり、西日本新人王決定戦を目前に挫折するも大阪で写真家に転じ、釜ヶ崎の生々しい現実を撮り続けた——こんな要約を聞いただけでも、その一端は窺い知れよう。もうひとつは、このような経緯で「カメラマン」になった砂守の主要な仕事の舞台は当時、一世を風靡していた写真週刊誌で、突撃ジャーナリズムを象徴するような写真をいくつも残している。だが、それは写真家としての評価とは違う。代表作『カマ・ティダ』も写真集ではなく、文章が中心の写文集だ。

さらに言えば、そのような離散や被災にまつわる写真を撮る文脈が理解されていなかった。スキャンダリズムから一転するかのうに雲仙普賢岳を撮ったのは、転身などではなく、日雇いに明け暮れる釜ヶ崎の路上生活者と、普段の生活から否応なしに避難を迫られた火の山の麓に住む民が、根源的に同じ流浪の運命を生きる者であることを見て取ったからだろう。さらに言えば、砂守が島原半島に心を注いだのも、かつてそこがみづからもクリスチャンであるキリスト教徒の迫害の歴史が刻まれていたからに違いない。そしてそれは「ヒロシマ」の爆心地から追われるように避難せざるをえなかった人々の見えない暮らしの跡にまで迫っていく。

この展覧会では、砂守の背景に確実に存在した、こうした被災や流浪、そして迫害に共通する様々な離散の痕跡に焦点を当て、それらを「黙示」することで、砂守勝巳という写真家を再発見するとともに、私たちがいままさに直面しようとしている新しい時代に、これまでとは異なる色合いの光を当ててみたい。

榎木 野衣(美術評論家)



砂守 勝巳

1951年沖縄本島に生まれ、奄美大島で少年時代を送り、15歳で大阪へ。プロボクサー(神林拳闘会)を経て写真家となる。1975年3月、大阪写真専門学校(大阪ビジュアルアーツ専門学校)卒業。1984年、ドキュメント・フォト集『大阪流転』で月刊プレイボーイ誌のドキュメント・ファイル大賞奨励賞受賞。1996年、第15回土門拳賞・第46回日本写真協会新人賞受賞。2009年6月、胃がんにより57歳で死去。著書に『カマ・ティダ-大阪西成』(IPC、1989)、『オキナワン・シャウト』(筑摩書房、1992)、『沖縄シャウト』と改題し2000年に講談社文庫)、『漂う島とまる水』(クレオ、1995)、『オキナワ紀聞』(双葉社、1998)、『沖縄ストーリーズ』と改題し2006年にソニーマガジズより刊行など。



このチラシを持参の方は、丸木美術館入館料が100円割引になります

公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

5月5日は開館記念日・8月6日はひろしま忌

[常設展] 「原爆の図」連作

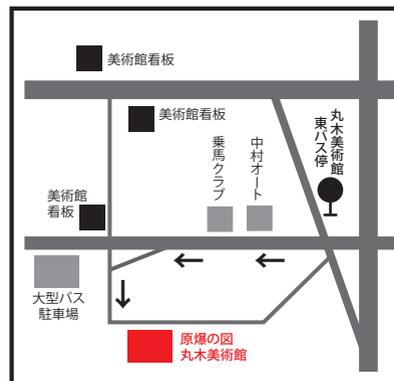
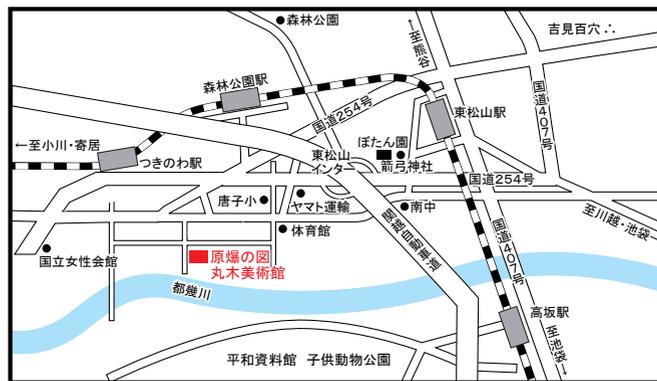
「水俣の図」
「南京大虐殺の図」
「アウシュビッツの図」
「水俣・原発・三里塚」
丸木スマ水彩画等

[開館時間] 午前9時～午後5時

(12月～2月は午前9時半～午後4時半)

[休館日] 月曜日(月曜祝日の場合は翌平日)

[入館料] 大人900円 中高生または18歳未満600円
小学生400円 団体(20名以上)、60歳以上、
チラシ持参者、比企地区在住者100円割引
障(しょうがい)のある方は半額



〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401
TEL 0493-22-3266 FAX 0493-24-8371

[URL] <http://www.aya.or.jp/~marukimsn/>
[Eメール] marukimsn@aya.or.jp

[交通] ●東武東上線森林公園駅
南口よりタクシー10分、徒歩50分
●東武東上線東松山駅より市内循環バス唐子コース(日祝運休)約15分
「丸木美術館東」下車徒歩15分
●関越自動車道
東松山インターより小川方面10分
●東武東上線つきのわ駅南口から徒歩27分、詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい

【市内循環バス時刻表(日祝運休)】

東松山駅東口発	丸木美術館東発
08:55	10:32
10:00	11:37
11:05	14:02
13:30	15:02
14:30	16:27
15:55	17:32